

国道32号猪ノ鼻道路の開通による整備効果

徳島河川国道事務所	計画課	室賀 俊寿
徳島河川国道事務所	計画課長	海崎 健志
徳島河川国道事務所	計画第二係長	原 健

令和2年12月13日に開通した国道32号猪ノ鼻道路の交通状況や整備効果等についての報告を行う。

キーワード 事前通行規制, 規制解除, 線形不良の解消

1. 国道32号猪ノ鼻道路について

国道32号猪ノ鼻道路は、香川県三豊市財田町財田上を起点とし、徳島県三好市池田町州津までの延長8.4kmの道路であり、構造規格は第3種第3級、設計速度は60km/h、車線数は2車線となっている。

2. 猪ノ鼻道路開通前の道路状況について

高松市から徳島県西部を経て高知市までを結ぶ国道32号は、四国の主要幹線道路であるとともに、沿線地域の日常生活を支える重要な路線である。この内、猪ノ鼻峠における旧国道32号は、急カーブが連続する線形不良区間で重大事故が多く発生して



図1 猪ノ鼻道路の全長

いた。また、大雨時には落石や法面崩落の恐れから予め通行を制限する事前通行規制区間に指定されており、常時の通行が可能でないという状況であった。こうした状況から、国道32号猪ノ鼻道路は平成15年度に事業化され、平成19年度より用地着手及び工事に着手、令和2年12月13日に全線開通となった。

3. 猪ノ鼻道路開通後の道路状況、整備効果

猪ノ鼻道路開通1年後の香川県と徳島県間の交通量は、平日が約6,700台/日、休日が約6,900台/日で、開通前と比べ平日が3割増加、休日が1割増加し、8割以上が猪ノ鼻道路を利用している。

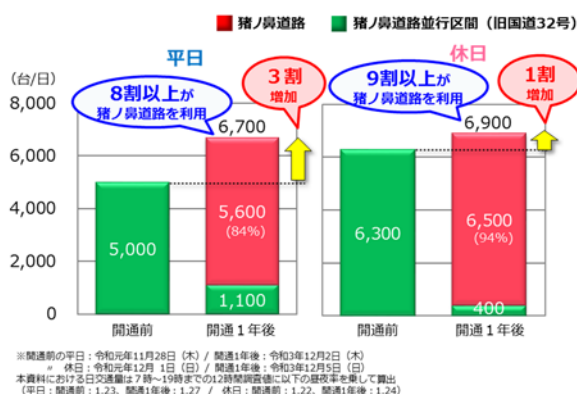


図2 猪ノ鼻道路開通前後の交通量の変化

また、猪ノ鼻道路の整備効果を次に示す。

（1）線形不良区間の回避による安全性の確保

猪ノ鼻道路並行区間である旧国道32号（以下、旧道）は、急カーブが連続する線形不良区間で重大事故が多く発生していた。猪ノ鼻道路の整備により、線形不良区間がない安全で快適な通行を確保できるようになった結果、開通後の1年間では、交通事故0を達成している。



図3 車線を逸脱して走行する大型車の様子

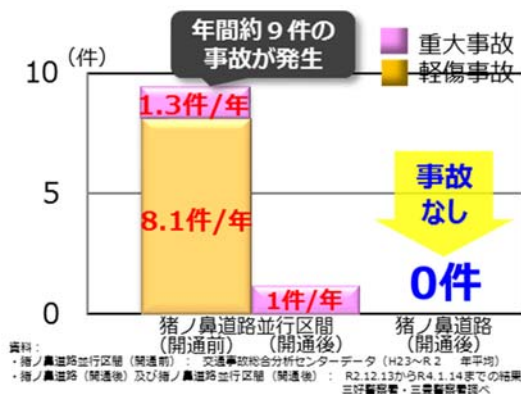


図4 猪ノ鼻道路開通前後の交通事故の発生状況

（2）広域医療を支援し更なる安心を確保

猪ノ鼻道路周辺の3次医療施設としては県立三好病院、三豊総合病院のほか、四国で唯一の小児救急救命センターである四国こどもとおとなの医療センターがある。周産期母子医療センターは、徳島県では東部地域に偏在しており、徳島西部の最寄りの周産期母子医療センターは四国こどもとおとなの医療センターである。また、徳島県における人口10万人あたりの小児科、産科・産婦人科の医師数は、医療機関が充実する東部、南部地域が多く、西部地域は医師数が少ない。実際、猪ノ鼻道路周辺の三好市、東みよし町と四国こどもとおとなの医療センターがある善通寺市の小児科、産科・産婦人科の医師数とでは、約10倍程度の差があり、徳島県西部地域では小児・周産期医療体制が充実しているとはいえない現状がある。さらに、徳島県西部地域からの救急搬送は四国こどもとおとなの医療センターへの搬送が多いことから、徳島西部の地域医療にとり道路ネットワークが果たすべき役割は大きい。四国こどもとおとなの医療センターへの所要時間は、三好市役所を起点とし、旧道利用した場合は約49分、迂回する高速道路を利用した場合は約45分（いずれも非混雑時）かかっていたのに対し、猪ノ鼻道路を利用した場合約36分（ETC2.0プローブデータより）と、開通前と比べ所要時間を短縮するとともに、急カーブがないことで、救急搬送患者や救急隊員への負担が軽減された。



図5 猪ノ鼻道路周辺の3次医療施設

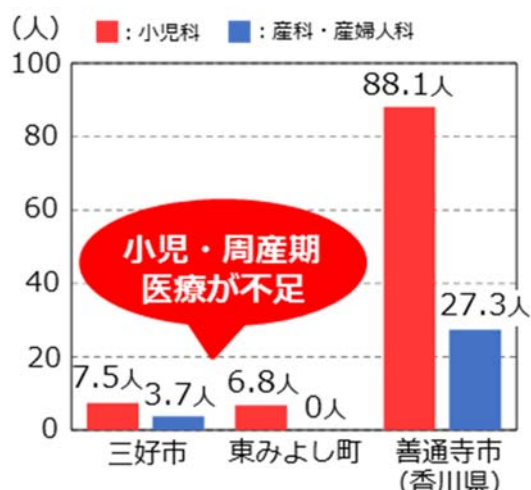


図6 三好市、東みよし町と善通寺市の10万人あたり医師数の比較

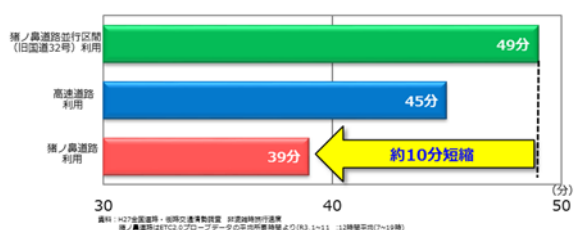
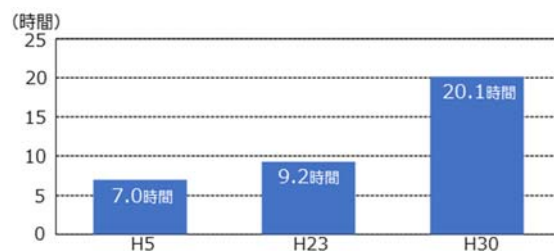


図7 三好市役所～四国こどもととなの医療センターまでの所要時間

(3) 大雨時の事前通行規制区間を回避

旧道では、落石や法面崩落などの危険箇所が多数あり、香川県三豊市財田町財田上～徳島県三好市池田町箸蔵までの延長 11.0km が大雨（連続雨量 250mm 以上）時の事前通行規制区間に指定されていた。事前通行規制区間のうち、猪ノ鼻道路の起点側の 0.96km については、通行規制解除に必要な防災対策が実施され、令和2年8月3日より事前通行規制区間の短縮が行われた。これと合わせ、猪ノ鼻道路の開通により、事前通行規制区間を通ることなく香川～徳島間の往来が可能となり、利便性が向上した。



資料：通行規制記録（四国地方整備局）
※全園通行止めのみを対象としており、各年の通行規制の回数はすべて1回

図9 過去の事前通行規制の状況



図10 大雨による事前通行規制の様子

(4) 突発的な通行障害を回避し、安全かつ安定した通行を確保

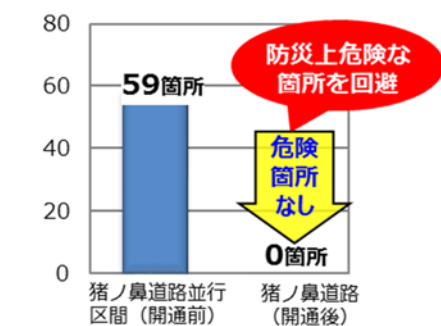
旧道では、落石による通行規制や、冬期は積雪による通行規制等が多く発生し、突発的な通行障害が毎年発生していた。猪ノ鼻道路は大部分がトンネルであるため、防災上危険な箇所の回避及び冬期の通行障害が軽減され、利用者の安全性と安定した通行を確保している。



図11 除雪作業の様子

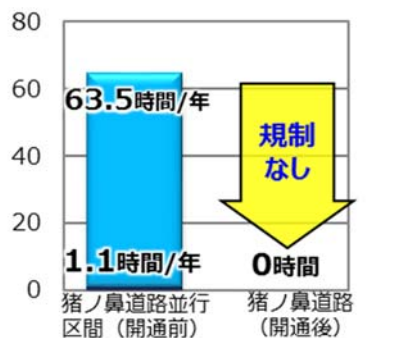


図8 猪ノ鼻道路並行区間 (旧国道32号) における事前通行規制区間の指定状況



資料：防災カルテ（徳島河川国道事務所・香川河川国道事務所）
※防災上危険な箇所：被災により一時的に通行不可となる箇所

図 1.2 防災上危険な箇所



■：チェーン必要等の時間（H28～R2年平均）
■：積雪等による通行止め時間（H28～R2年平均）
徳島河川国道事務所・香川河川国道事務所の集計による

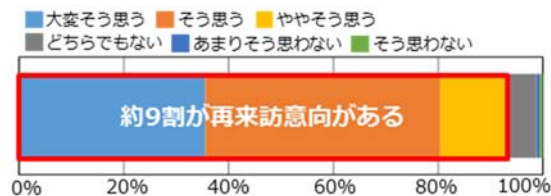
図 1.3 積雪による通行規制等の発生状況

（5）広域的な観光周遊を支援

猪ノ鼻道路周辺の、香川県「中讃・西讃地区」及び徳島県「にし阿波地区」は観光庁が認定する主要広域観光ルートを形成する拠点地区として位置づけられ、地域資源を活かした観光地が脚光を浴びる注目エリアとなっている。猪ノ鼻道路が、両地区を結び、アフターコロナの観光回復に寄与することが期待される。



図 1.4 猪ノ鼻道路周辺の主要観光地の分布状況



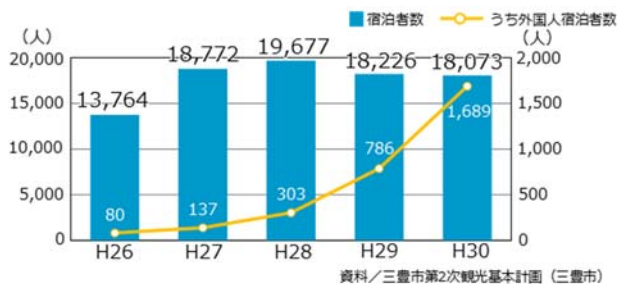
資料：香川県観光客動向調査（香川県）

図 1.5 観光客の再来訪意向（三好市）



資料：徳島県観光振興基本計画（第3期）

図 1.6 徳島（にし阿波地区）における外国人宿泊者数の推移



資料：三豊市第2次観光基本計画（三豊市）

図 1.7 三豊市宿泊者数の推移

4. まとめ

猪ノ鼻道路の整備により、安全な通行が確保できるようになったことによる事故の減少や、所要時間の短縮による地域医療への貢献と利便性の向上による交通量の増加を実現した。また、アフターコロナを見据え、観光業の振興を含めた地域経済への波及効果などが期待されている。